

植物防疫特別増刊号「疫病」の発行に当たって —「疫病」事始め—

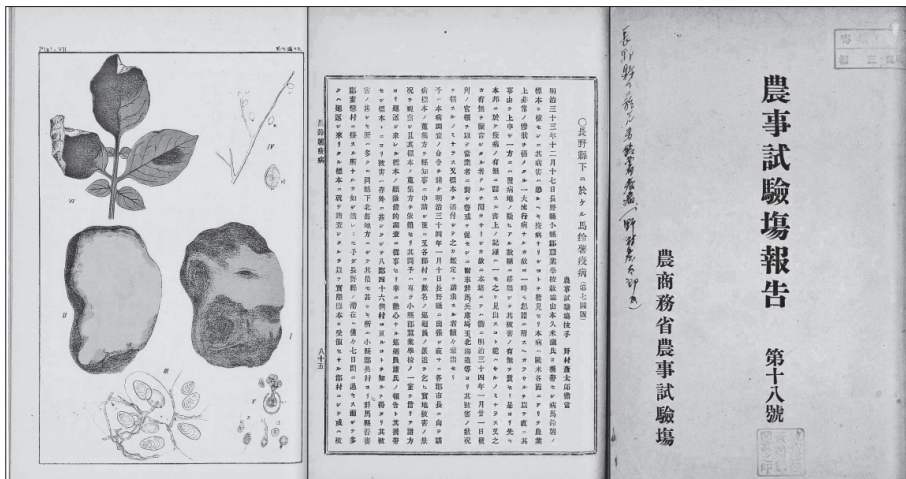
元 農研機構 花き研究所 ちく 尾 よし 嘉 あき 章

「疫病」の本来の意味は集団発生する伝染病・流行病のこと（広辞苑）であり、英語の epidemic または plague に相当する一般名詞である。しかし、植物病理分野では *Phytophthora* 属菌が感染して引き起こされる植物の病害であり固有名詞として扱っている。いわば一般名詞としての疫病が特定の病害群をさす言葉に変化したと思われる。本病の代表選手であるジャガイモ疫病 (late blight of potato) は世界的にも食料飢餓 Potato Famine を起こして悪名高いし、わが国でも 1900 年に北海道や長野県で発生が確認され、翌年に相次いで報告された。順に記すと①草野俊助「馬鈴薯病菌 *Phytophthora* 日本に産す」植物学雑誌 15 (167) : 1~3 (1901.1), ②出田新著「実用植物病理学」裳華房刊 (1901.6) ③野村彦太郎「長野県県下における馬鈴薯疫病」農事試験場報告 18 : 85~92 (1901.11) となる。このうち②の中に我が国最初の「疫病」の固有名詞としての使用例がみられ、③ではタイトルで明瞭に「疫病」と固有名詞として使われている。海外ではすでにジャガイモの *Phytophthora* 菌による病害を「Potato Plague」と呼んでおり、plague (ペスト, 悪疫, 疫病; 医学英語用語集; 東京医科大学国際医学情報学講座) の和訳として「疫病」(本病が急速に蔓延し被害が大きいことから) が選ばれたと推定されるが誰が命名者なのかは不明である。

その後、ジャガイモだけでなく様々な作物の病害として疫病は登場することとなった。その場合も *Phytophthora* 病が疫病と呼びならわされることになった。根腐病等疫病以外の名称が使われる場合もあるがその場合は先命権が関わり使用できない例がほとんどである。

雑誌「植物防疫」では、単発記事としての疫病は数多く掲載されてきたが、特集号としては 1981 年 (昭和 56 年) 10 月号以来、2013 年 (平成 25 年) 10 月号まで組まれることはなかった (ミニ特集「ダイズ茎疫病」が例外, 64 巻 8 月号, 2010)。幸い本号は好評を持って迎えられたようで本号を基にして特別増刊号を出版してはとの話が持ち上がったようである。通常の「植物防疫」の場合、2 か月に一回の編集委員会において合議制で掲載記事などを決定するが、本号の場合、時間的制約などから専門家 4 名がネット上の架空編集委員会を開催して掲載内容等を決めることとなった。もとより初めての試みであったが、居住地域を別にする現職組 2 名と定年退職組 2 名で何とか形を成すことになったのは、病を抱えつつ業務を遂行された本橋恒樹氏ほか事務局である日本植物防疫協会支援事業部のおかげである。紙数の関係ですべてを網羅するわけではないが、本号が読者の疫病研究の一助になれば幸いである。

編集委員を代表して



農事試験場報告第 18 号「長野県県下における馬鈴薯疫病」(日本植物防疫協会 資料館 所蔵)